

2018年度町田市教育委員会

第6回定例会会議録

1、開催日 2018年9月14日

2、開催場所 第三、第四、第五会議室

3、出席者 教 育 長 坂 本 修 一
委 員 佐 藤 昇
委 員 八 並 清 子
委 員 坂 上 圭 子

4、署名者 教育長 _____
委 員 _____

5、出席事務局職員	学校教育部長	北 澤 英 明
	生涯学習部長	中 村 哲 也
	教育総務課長	田 中 隆 志
	教育総務課担当課長 (学校運営支援担当)	谷 勇 児
	施設課長	浅 沼 猛 夫
	施設課学校用務担当課長	小 宮 寛 幸
	学務課長	峰 岸 学
	学務課担当課長	中 溝 智 章
	保健給食課長	有 田 宏 治
	指導室長	金 木 圭 一
	(兼) 指導課長	
	指導課担当課長	野 田 留 美
	指導課統括指導主事	辻 和 夫
	教育センター担当課長	林 啓
	教育センター統括指導主事	宇 野 賢 悟

生涯学習総務課長	佐藤 浩子
生涯学習総務課担当課長	早出 満明
(兼) 総務係長	
生涯学習総務課担当課長	貴志 高陽
(兼) 文化財係長	
生涯学習センター長	塩田 一人
図書館長	近藤 裕一
図書館市民文学館担当課長	吉川 輝
(町田市民文学館長)	
図書館副館長	中嶋 真
図書館担当課長	江波戸 恵子
書記	大河内 和歌子
書記	中野 亮介
書記	瓜田 円
速記士	帯刀 道代

(株式会社ゲンブリッジオフィス)

6、提出議案、臨時代理報告及び結果

議案第16号 町田市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する規程について

原案可決

7、傍聴者数 1名

8、議事の概要

午前10時00分開会

○教育長 ただいまから町田市教育委員会第6回定例会を開会いたします。

本日の署名委員は佐藤委員です。

なお、本日は森山委員から欠席の届け出がありましたが、委員の皆様、過半数が出席しておりますので、予定どおり会議を開催いたします。

日程第1、月間活動報告に入ります。

前回の教育委員会定例会以降の活動につきまして、まず私から、今日は2点ほどご報告させていただきます。

9月1日（土）でございますが、国際版画美術館におきまして、町田市美術協会主催のアートコンテスト「町田市展」の授賞式がございました。この賞の中には教育長賞が設けられておりますので、この授与のために出席したものでございます。昨年までは「市展」という名称だったものを、今年は「アートコンテスト 町田市展」と改名して、町田市の審査・公募制美術展としての特色を鮮明にしたことがよかったのか、出品点数も来場者数も昨年に比べてふえたということに関係者の皆様からお聞きいたしました。

私は授賞式の前に、展示室のほうで、出品された皆様のすばらしい作品を拝見させていただきましたが、絵画や陶芸、写真とか手芸など、バラエティーに富んだ力作ぞろいの作品に感嘆をいたしました。また、町田第一中学校の美術部の生徒の絵画も展示されておりました。このような美術展は、教育委員会が所管する生涯学習という分野にも大きく寄与するものだと考えております。第25回というこの美術展の長い歴史の中では、さまざまなご苦労があったと聞いておりますが、歴代の会員の皆様のご尽力に改めて敬意を表し、感謝申し上げたいと思います。

次に、9月10日（月）でございますが、校長職及び教育管理職選考の二次選考受験者に対する激励会を開催いたしまして、私から受験される先生方に激励の挨拶をさせていただきました。

ちなみに、一次選考の合格者数は、校長職だけ申し上げますと、小学校は15名の受験者のうち9名、中学校は9名の受験者のうち4名の副校長先生が合格されております。

この先生方の二次選考の面接は9月18日から10月1日にかけて行われますが、近年、教育管理職選考受験者が減少している中で、この町田市から多くの管理職が巣立ってほしいと願うとともに、受験される先生方全員の合格をお祈りしたいと思います。

その他の主な活動は、お配りしております資料のとおりでございます。

私からの報告は以上でございます。

次に、両部長から何かありましたらお願いします。

○学校教育部長 私から、2018年度第3回町田市議会定例会についてご報告させていただきます。

初めに、一般質問は8月30日から9月5日までの5日間行われ、学校教育部は14人の議員から質問がございました。

その内容としましては、放課後子ども教室「まちとも」と学校のかかわり方、「子育てしやすい町田」という表題で、外出・通学の安心、子育ての相談体制、不審者情報などの近隣市との連携、それと通学路の4項目でございました。

また、中学校は、主に部活になりますが、地域スポーツの一体化について、体育館などの避難施設へのエアコンの整備について、教育現場での非核平和の啓発について、教職員の働き方改革の推進、小学校給食の徴収方法や会計処理、経理のあり方について、陰山メソッドの導入、小学校英語教育、道路族について、中学校全員給食と学校給食費の公会計化の実施について、児童虐待防止の取り組み、学校施設の省エネルギー化、性教育の取り組み、防災・減災対策として、学校でのマイ・タイムライン導入、学校図書館図書標準達成率について、現在の標準服・体操着の問題点と課題、以上でございました。

9月11日に行われました文教社会常任委員会では、補正予算、2017年度の決算認定、行政報告について審議していただきました。

初めに、補正予算は、今年6月に大阪府北部で発生した地震によるブロック塀の倒壊事故を受け、7月6日に開催いたしました第4回定例会でご報告させていただきました緊急点検に基づき、小・中学校のブロック塀等の撤去や改修等を行うため、補正予算を計上いたしました。また、町田第一中学校改築工事において、町田消防署跡地を工事期間中の代替グラウンドとして使用するための整備工事費を計上いたしました。

次に、2017年度決算認定での主な質問といたしましては、学校用務、小学校給食調理業務を委託しているということで、その委託に関する課題はあるのかという質問と、中学校給食の喫食率の低下の要因や改善に向けた取り組みについて、また、小・中学校における図書標準達成校がどのくらいあるのかということと、光熱費の増加要因及び対策についての質問がございました。

行政報告は、これも8月20日に開催した第1回臨時会においてご承認いただいた町田市教育プラン2019-2023のパブリックコメントを行うに当たり、計画案の内容、パブリックコメントの実施概要、今後のスケジュールについて説明したところでございます。

報告は以上となります。

○生涯学習部長 私からは、第3回定例会の生涯学習部所管分の案件につきましてご報告させていただきます。

まず本会議の一般質問におきましては、2名の議員から質問の通告がございました。1件は、大和市との図書館相互利用に関する質問でした。もう1件は、町田市独自の文学賞

の創設に関する質問でした。

このほか、通告に基づく質問以外では、市が実施する非核平和の啓発事業に関連して、生涯学習センターで実施した原爆パネル展などについて質問がありました。

次に、9月12日に開催されました文教社会常任委員会の審査につきましてご報告いたします。

生涯学習部の案件は、補正予算、決算認定、行政報告でした。

初めに、補正予算の審査を受けました。高ヶ坂遺跡の整備事業に関する国及び東京都からの補助金額の決定に伴って、歳入及び歳出を減額するもので、特に質問はありませんでした。

次に、2017年度決算について審査を受けました。主な質問でございますが、図書館の貸し出し冊数が減少している原因について、それから生涯学習センター、文学館の展覧会のPR方法について、文化財の補助金減額の理由などございまして、これらの質問を受けた後、決算は認定すべきものとされました。

最後に、「町田市民文学館のあり方見直しの検討状況について（中間報告）」と題した行政報告を行いました。質問は特にございませんでした。

ご報告は以上でございます。

○教育長 それでは次に、各委員からご報告をお願いいたします。

○佐藤委員 1点報告させていただきます。

8月28日、町田市教育センターが主催する教育相談講演会に出席いたしました。この企画は、町田市立学校の教職員を対象にして、教育相談に関する話題をテーマに、招聘した講師の講演を聞いて、児童・生徒の指導に役立てようというものです。

今回は「発達障害の発見 アセスメント対応」という主題のもと、東京学芸大学の非常勤講師であります前川圭一郎先生による講演でした。定員はもともと80名となっていましたが、実際は100名を超える盛況ぶりでした。参加者がこのように多かったのは、私もそうですが、先生方も発達障害には強い関心を持っているからではないかということを感じました。その講義の内容ですが、テーマにあります発達障害そのものを理解することから少し外れていたのはとても残念でありましたが、一方的に講義するだけでなく、時々参加者に向けて質問するなど、受講者が疲れのないような工夫がされているというふうにも思いました。

報告は以上です。

○八並委員 私からは2点報告したいと思います。

1つは、8月3日、町田市公立中学校長会夏季研修会で東京グローバルゲートウェイに行くということでしたので、私も同席させていただきました。こちらは先日、報道にもありましたように、9月6日にオープンした東京都教育委員会が主催する体験型英語学習施設となっております。

児童・生徒8人に1人のイングリッシュスピーカー、エージェントがつき、エアポートゾーン、ホテルゾーン、トラベルゾーン、キャンパスゾーンといった海外で実際に体験するであろう場所が設定されており、グループごとに、カードに書かれているさまざまなミッションを、英語を使って達成していくというプログラムになっていて、実際に英語を使った場면을体験することができます。

当日は施設内の見学や、実際にプログラムを行っているグループを見せていただきました。校長先生の中には、学校の先生方、特に英語科の先生方と話をし、実際にもう既に見学に来たことがある、あるいは学校行事にどのように組み込めるであろうかという議論を進めているというお話も伺いました。

英語だけで過ごす経験が持てることは大変有意義なことであると思います。しかし、町田からは距離的にかなり遠く、移動時間や交通費などのことを考えると、いろいろな課題があると感じました。

また、9月11日には、町田市立中学校PTA連合会の交流会がひなた村で行われ、佐藤委員、坂上委員とともに出席してまいりました。この中P連の交流会は、各校のPTA役員が役職ごとに集まり、他校との情報交換を通じ、交流を深めるものです。

午前中はグループごとに情報交換があり、午後には各グループからの発表があります。私も毎年出席させていただいておりますが、午前中の情報交換に出席するのは初めてでした。私は、そのときには対外的な役割をしている副会長さんのグループ、そして講演会や研修会などを担当する文化委員のグループのお話を伺いました。

恐らく皆さんお1人お1人は初対面で、その中の多くの方が初めて役員を引き受けられる。中にはくじに当たって役員を引き受けられたという方もいらっしゃる中、どのグループでも活発な情報交換が行われていました。昨年までは1学期中に行われており、それもPTAの活動を始める上では非常に有意義ではないかと思いましたが、企画運営する分にはなかなか大変な面が多いのではないかと感じておりましたが、今年度は9月ということで、2学期が始まってすぐに行われ、どの方も1学期中のPTA活動も踏まえてい

ろいろな発言がされ、昨年よりも活発に情報交換が進められたのではないかと考えられました。

私事ですが、私が中P連の会長を務めていた平成22年度は、それまで10年間行われていた音楽交歓会がありました。それは、各校の合唱を含めた発表の場にはなっているけれども、それぞれの学校との交流にはなっていないということが問題になっておりました。その後、中P連での検討を重ねて、今のような交流会になって7年になると伺いました。中学校20校のPTAが集まり、このように情報交換ができることこそ、連合会の大きな活動の1つではないかと考えます。

昨今のPTAのあり方については、さまざまな報道がなされるように、活動の仕方についてはいろいろなことが考えられますが、町田市の中P連のこのような活動は、大変貴重で有意義な活動になっていると思いますので、ぜひこの活動を応援するとともに、事務局を含め、いろいろな方々にこのようなPTA活動があるということをぜひ一度見ていただきたいと思いました。

私からは以上です。

○坂上委員 私からは1点ご報告させていただきます。

今、八並委員がご報告されたことと重なるのですが、私も9月11日にひなた村で行われました中学校PTA連合会のPTA交流会に出席してまいりました。この交流会は毎年7月に行われていたので、初めてPTAになられた方は、まだ右も左もわからないという声が多かったのですが、今年は9月の開催とあり、皆さんもちょうどPTA活動になれてきたころではないかと思えます。しかしながら、まだよくわからないことも多く、自分たちのやっている活動に疑問や、また、他校はどうしているのかという質問がいろいろと出て、短いながらもなかなか有意義な意見交換ができていったと思えます。

午前中は各役職ごとに分かれ、10人ぐらいのグループになり、それぞれ自己紹介の後、意見交換をしました。私は校外副会長さんのグループ、主に学校外での活動にかかわる副会長さんたちのグループに入れていただき、皆さんのお話を聞かせていただきました。最初は校外副会長さんの役割の話から始まり、地域の健全育成会とのかかわりの話が出て、それも各校さまざま、地域性の違いがいろいろと出て、大変ながらも、皆さん上手にやっている様子がわかりました。

そのほかの話題は、運動会や合唱コンクールなど、学校行事で起こったトラブルの話や、これから周年行事を迎えるに当たり、どんな準備をしていけばよいのかなど、日々の活動

の様子や、他校の事例を参考にしたいという質問が次々と飛び交い、最終的には、いつも課題となるPTA役員選びの話になり、各校はどんな選出の仕方をしているのか、選出方法や苦勞している点などを話し合いました。

これも各校さまざまで、くじ引きなしで、さっと決まるところもあれば、役員全員がくじ引きで決まったというところもあり、候補者の選出方法も、選出委員会があるところや、アンケートによる事前調査をかけるなど、皆さん本当にいろいろと苦勞して毎年PTAを決めているようです。

継続してPTAを続けてくれる人がなかなかなくて、毎年全員が新メンバーになるところは、昔ながらのやり方やルールに疑問を持ちつつも、どのように変えていけばいいのかわからないまま、次に継ぐだけで精いっぱいになり、今の時代に合ったやり方に見直したり、改革したりするのが難しいという学校も多かったようです。

仕事の理由でできないほかに、今は、家庭の事情や心身の理由などが加わり、PTAをやっていただける方の数は年々本当に少なくなっているようです。その中でこうしてPTAをやってくださる皆様には、本当に感謝の気持ちしかありません。いろいろな意味で、今後のPTAのあり方を見直す時期に来ているのかもしれないと思いました。

しかしながら、こうしてお話している間はとてもよい雰囲気です、やってみたら意外と楽しいと話してくださる方がほとんどだったので、それだけでも心が救われる思いでした。顔を合わせて人と人が言葉を交わす場が少なくなっている今の時代こそ、PTAをやったことで、大変ながらもいろいろな経験がプラスになり、今後の皆さんの活躍に何か役に立てればと切に願いました。

私からは以上です。

○教育長 ただいまのそれぞれの報告につきまして、何かご質問などありましたらお願いいたします。――よろしいでしょうか。

以上で月間活動報告を終了いたします。

日程第2、議案審議事項に入ります。

議案第16号を審議いたします。本件については学校教育部長からご説明を申し上げます。

○学校教育部長 議案第16号「町田市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する規程について」、ご説明いたします。

町田市事務決裁規程の改正に伴い、補助金等に関する個別決裁事項を整理するため、改正するものでございます。

1枚おめくりいただきまして、1「改正理由」は、町田市事務決裁規程の改正に伴い、補助金等に関する個別決裁事項を整理するため、改正するものでございます。

次に、4「補足説明」をご覧ください。教育委員会における既存の補助金については、町田市事務決裁規程で新たに定める補助金等に係る共通の決裁区分を適用するため、これまで個別決裁事項に定めていた各補助金に関する規定を削るものでございます。

次に、2「改正内容」でございます。(1)「学務課の個別決裁事項から、通学費補助金に関する規定を削ります」。(2)「指導課の個別決裁事項から、学校教育関係団体及び校外学習事業に対する補助金並びに町田市立中学校部活動全国大会等参加費補助金に関する規定を削ります」。あわせて(3)「その他文言の整理を行います」。

施行期日は、平成30年10月1日から施行いたします。

次のページ以降に、改正する規程について載せさせていただいております。

説明は以上となります。

○教育長 以上で説明は終わりました。

これより質疑に入ります。ただいまの説明に関して、何かございましたらお願いいたします。

○佐藤委員 「改正内容」を見ますと、いろいろな補助金に関する規定を削りますと表現されておりますが、削られた後なくなってしまうのか、それともどのように扱われるのかを知りたいと思います。念のためですが、通学費補助金、学校教育関係団体及び校外学習事業に対する補助金、町田市立中学校部活動全国大会等参加費補助金、これらの補助金がなくなるということではないですね。その点、確認をさせていただきたいと思います。

○教育総務課長 お答えいたします。

こちらの規程につきましては、それぞれの補助金の額を決定したり、実績報告を受けた際の決裁の区分を決定するための規程でございます。今回の改正につきましては、その決定を行う、また実績報告を受ける際の決裁区分ということで、それを受ける者は、補助金は原則として教育長となっておりますけれども、簡易なもの等については、それぞれの個別の規程を設けまして、課長、部長なりで規定をしておりました。

今回の改正につきましては、それぞれの補助金ごとに区分を決めるのではなく、補助金全体として、金額をもって決裁区分を決めるという改正になりますので、個々の補助金が削除されるとか、そういったものではございません。個々の補助金については、その補助

金ごとに、要綱なり規則なりで定めておりますので、そちらが変更になった際に、決裁規程を逐一変更することがないようにという形の改定でございます。

○教育長 そのほか何かございましたらお願いいたします。――よろしいですか。

以上で質疑を終了します。

お諮りします。議案第16号は原案のとおり可決することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○教育長 ご異議なしと認め、原案のとおり決することにいたします。

次に、日程第3、報告事項に入ります。

本日の報告事項は6件ございます。

詳細につきましては、それぞれの担当者のほうからご説明を申し上げます。

○指導室長(兼)指導課長 報告事項(1)「平成30年度全国学力・学習状況調査の結果について」、ご報告をいたします。

実施日は本年4月17日(火)、対象は小学校6年生及び中学校3年生でございます。

調査目的につきましては記載のとおりでございます。

調査内容につきましては、国語、算数・数学、そのA、Bで、主として「知識」に関する問題A、主として「活用」に関する問題B、また今年度は3年に一度実施されます理科が小・中学校でございました。さらに生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査を実施しております。

5番、学力調査の結果でございます。表の中で、上段は正答率、下は割合として示してございます。割合につきましては、全国を100と見たときの割合ということで示してございます。

まず、小学校でございます。国語AB、算数ABは、全国の平均正答率と比べますと、0.3ポイントから1.5ポイント程度上回っております。しかし、東京都の平均正答率と比較すると、2から3ポイント程度下回っている状況でございます。また、理科につきましては、全国、東京都の平均正答率よりも下回っている状況でございます。

続きまして、中学校です。中学校は、国語AB、数学Aにおきましては、全国の平均正答率を上回り、東京都の平均正答率と同じでございます。数学Bにつきましては、全国の平均正答率を上回っておりますが、東京都の平均正答率より1ポイント下回っている状況でございます。また、理科につきましては、全国の平均正答率より1.1ポイント下回ってお

りますが、東京都の平均正答率と同じという状況でございます。

2 ページ目になります。国語、算数・数学における3年間の経年変化でございます。表があり、その下にグラフを示してございます。グラフ内の青が東京都との比較、赤が国との比較になっております。

小学校、中学校の考察から、今年度は直近3年間で初めて、国語、算数・数学のA B領域の全てにおいて全国平均を上回る結果となりました。このことから学力向上に関する取り組みについては一定の成果があったと考えております。

しかし、小学校におきましては、東京都の平均正答率に対しまして、3年間続けて全てにおいて下回っているという状況でございます。知識・技能及び活用の両面からさらなる指導の充実が必要であると考えております。

中学校につきましては、東京都の平均正答率とほぼ同等ということから、これまでの学力向上に関する取り組みについて一定の成果があったと考えております。小学校で身につけるべき知識・技能の高まりが中学校の指導内容の改善にもつながり、これまで以上の成果を上げていくことが可能であると考えております。

おめくりいただきまして、3 ページ、最上位校と最下位校の平均正答率の差でございます。小学校におきましては、国語A、算数A Bにおいて、最上位校と最下位校の差が、昨年度と比べ、広がっているという状況でございます。国語Bの最下位校の値は、この直近3年間で、町田市の平均と比較しますと、11ポイント縮まっているという状況でございます。

中学校においては、国語A B、数学Aにおきまして、最上位校と最下位校の差は3年間で縮まってきております。特に国語Bの最下位校の値は、町田市の平均と比べ、昨年度より10ポイント縮まっているという状況でございます。

このことから、小学校の国語Bにおいては、町田市の平均を100と見た場合、「差」というところを見ていただきますと、最上位校は、町田市の平均に近づくように年々縮まっているという状況でございます。一方で、最下位校は、町田市の平均に近づくように上昇しているという状況でございます。

同様の見方をしますと、中学校の国語A Bにおきましては、最上位校と町田市の平均の差は縮まってきており、一方で、最下位校は町田市の平均に近づいてきていることから、学力の底上げが図られていると捉えることができると考えております。

続きまして、4 ページ、8 番、児童・生徒に対する質問紙調査において、全国または東

京都と比較し、5ポイント以上差のあった項目でございます。

上段が小学校になっております。小学校でも3項目ございます。

まずAは「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」、Bは「家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか」という家庭学習に関する調査項目でございます。東京都の値を上回っておりますが、全国からは下回っているという状況でございます。

少し飛びまして、中学校のA、Bでございます。まずAは「1、2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか」、Bは「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という、中学校1、2年生のときの学習に関する意識をはかっているものでございます。このことにつきましては、東京都、全国よりも下回るという状況でございます。

一方、Cは小・中学校とも「今住んでいる地域の行事に参加していますか」といった項目でございます。小学校では東京都を上回り、全国を下回る。中学校では全国、東京都を下回っているという状況でございます。

「考察」をご覧ください。地域行事への参加に関連した項目は、2017年度におきましても、小学校、中学校ともに、全国と比べて、5ポイント以上の差が見られた項目でございます。しかし、昨年度と比較しますと、小学校が52.9%から54.3%、中学校が33.0%から37.7%と肯定的な回答割合はふえてきております。地域の人たちとのかかわりがふえることで、新たな知識を獲得したり、関心を高めたりすることにつながり、そのことが学力にも影響していると考えております。

また、小学校におきましては、家庭学習の取り組みについて、全国と5ポイント以上の差があったという状況でございます。このことにつきましては、この方策について検討する必要があると考えております。

また、中学校におきましては、課外活動における地域連携に関連した項目、また、課題解決に向けた主体的な取り組みに関連する項目において、東京都、全国と5ポイント以上の差が見られたことから、地域と連携した学習の機会の設定や、生徒が主体的に取り組む態度、主体的、対話的で深い学びにどのようにつなげていくかといったところをさらに高めていく必要があると考えております。

9「今後の方針」でございます。

(1) 平均正答率の上位層及び下位層の学校からのヒアリングを行い、その内容について分析し、さらに平均正答率の低い学校への支援方策を検討、実行していきたいと考えております。

(2) としまして、授業力の向上、学力向上等を目指す研究指定校を今いろいろ指定しておりますが、その研究指定校のあり方について、検討していきたいと考えております。

(3) 学力向上推進プランが今年度で一定の終了時期を迎えます。また、新プランを策定する時期でございます。これまでの学力向上の推進プランの評価をし、新プランの策定に生かしていきたいと考えております。

(4) は、教員研修の内容を見直し、充実を図っていきたいと考えております。

(5) は、「新まちとも」で行っております放課後学習教室、また小・中学校で行っていただきます地域未来塾をさらに充実していきたいと考えております。

(6) は、すぐれた研究や実践を先進的に行っている自治体等へ管理職が視察し、各学校の学力向上に生かしていきたいと考えております。

報告は以上でございます。

○**教育長** 説明は終わりました。

ただいまの報告につきまして、何かご質問などありましたらお願いいたします。

○**佐藤委員** まず1ページから質問させていただきたいと思います。

5「学力調査結果」が、小学校と中学校で数値が表になって比較をされておりますが、これを見ましたところ、小学校は東京都の平均正答率よりも下回っているのに、中学校のそれはほぼ同じです。この結果をどのように分析しているのでしょうかという質問です。一般的に公立の小学校から中学校に進学する際に、一部の6年生は受験をして私立の中学校に入学していきます。どちらかといえば、成績、学力の優秀な子どもが私立に抜ける可能性があるわけです。それにもかかわらず、中学校の結果が小学校よりもよいというのは、どういうふうに分けたらよろしいのでしょうか。

○**指導室長（兼）指導課長** 東京都の平均正答率との比較で、中学校は上回っているか同程度でございます。これを分析するうえでの視点として、まず1点目は小・中学校が連携しながら、学力向上推進プランに基づき、学校で授業を進めていただいていることであり、まず学力調査の結果を受けて、授業改善推進プランを生かして、校内でどう学力をつけていくかを、小学校6年生の後半、中学校で考えていただいている状況でございます。授業改善については小学校でも中学校でも取り組んで、先生方は学力向上に向けて必死に

取り組みを進めていると考えております。

現中学校3年生が小学校6年生のときの全国学力・学習状況調査の結果と比較、分析しました。そのときに、2ページをご覧いただきたいのですが、下の中学校のグラフで、今年度、国語Aでは、東京都と比較するとゼロ、国と比較すると0.9という形であるかと思えます。国語Bだと、東京都と比較してゼロ、全国と比較すると1.8。つまり、東京都とは同程度という状況でございます。

このお子さんたちが小学校6年生のときどうであったかということを見てみました。そのときに、国語Aについては、東京都と比較し、マイナス1.8ポイントでございました。国語Bに関してはマイナス0.6ポイント。数学については、小学校の算数のときに、東京都と比較して、Aがマイナス1.0ポイント、Bがマイナス2.1ポイントという状況でございました。そのときには東京都を下回っているのは今と変わらないという状況でありました。その状況を踏まえて、中学校が授業改善を図ってきた結果ではないかと私は考えております。

答弁が長くなって申しわけございませんが、2つ目として、問題の取り組み方というところにも1つ課題があるかなと思っております。今年度、小学校に、国語A、国語B、算数A、算数Bで、問題を解くのに時間は十分でしたかという意識調査がございます。その中で、十分であったと回答してきた割合が、町田市は東京都、全国よりも低かったという状況でございます。一方、中学校では、どの教科でも、十分であったと回答しております。問題の取り組み方といったところも、小学校でも同じように、問題と回答を分けてやるような取り組みも必要ではないかと考えております。

さらに、3点目になりますが、中学校で、放課後の地域未来塾等を活用しながら、放課後補習も1つ力を入れてきたところもございます。このような観点から、小学校と中学校の差が出ているのではないかと事務局では分析をしたところでございます。

長くなりましたが、以上でございます。

○佐藤委員 今、事務局の分析について説明をいただいて、私自身はちょっと納得できないというか、ストンと入ってこないのですが、小学校での取り組み方について、どういうふうに取り組みればいいのか、もう一回検討する必要があるのではないかと思います。

AもBもありますから、一概には言えませんが、どちらかといえば、中学校のほうは、ペーパーテストに強い力をつけるような方向性というのはいまだにあると思うのです。小学校では、どちらかというと、活用とか、子どもたちの発想とか、そういうことを重要視して、中学校に比べたら必要な知識・技能を十分に身につけることがおろそかにな

っている可能性もある。私の推測ですので、事実に基づいたものではありませんが、これだけ小と中と結果が変わることについては、十分な検討が必要かなと思いますので、引き続きご検討いただければと思います。

○八並委員 3 ページにあります。最上位校と最下位校の差ということでいろいろ検討していただいております。最上位校、最下位校というのは、2016年から2018年まで、それぞれ同じ学校を示しているのでしょうか。それとも、その年ごとに変わっているという状況があるのでしょうか。

○指導室長（兼）指導課長 2016から2018で示している最上位校、最下位校ですが、年度ごと、また教科ごとによって違いがございます。

○佐藤委員 同じく3 ページですが、これは私の意見ですけれども、町田市内の最上位校と最下位校、中学校で言えば1位と20位、小学校は1位と42位、この差を分析の資料として用意されておりますが、これはあまり意味のない分析ではないか。今の八並委員のほうからの質問で、学校がその年によって違う可能性もあるようですけれども、この差が縮まったことで評価するという考え方はいかがなものかなと思っております。

むしろ最下位校でもいいし、最下位のほうにある数校でもいいのですが、下位のほうにある学校が、東京都の平均あるいは全国の平均と比べたら、差が縮まってきたということであれば、だんだん底辺校の力がついてきたという分析になると思うのですけれども、市内の1位校と最下位校と比較するのは、あまり分析にはならないのではないかな。これは私の意見です。

○教育長 事務局のほうで何かありますか。

○指導室長（兼）指導課長 ご意見ありがとうございました。平均正答率が全国を上回ったところから、何が要因で上回ってきたのかを分析しようと思って、今回はこのような分析をさせていただきました。今、佐藤委員からいただきました意見につきましては、私たちのさらなる分析を進める上で活用させていただきたいと考えております。

○佐藤委員 4 ページでお伺いしたいと思います。質問紙調査の結果の一部をここに取り上げてもらっていますが、小学校にしても中学校にしても、Cという項目の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という問いに対して、子どもたちが「当てはまる」とか「まあ当てはまる」を選んで答えていると思うのです。子どもたちがこの質問を読んで、「地域の行事」という言葉から、どんなことを想像して答えていると思われませんか。

○指導室長（兼）指導課長 私もこれは推測でしかない部分がございますが、地域と聞か

れたときに、子どもたちはそれぞれにまずそれまでの経験を想定すると考えております。お祭りであったり、運動会であったり、レクリエーションとしての取り組みとか、ハイキングみたいな形に参加したお子さんもいらっしゃるでしょう。またボランティアの活動なども、地域のボランティアということを質問紙で聞いているところもございます。実はこの意識調査で地域に関連する質問が6点ございます。そういった中で想像するところが、お子さんがそれぞれ育った地域によつての違いはあるので、一概に何を想像しながらここに回答したのかというところは言い切れませんが、推測ではそのようなところを考えております。

○佐藤委員 この質問に対する数値をどういうふうに見るかということになりますが、地域の行事に参加しましょうという意識を子どもたちが持っているとか、学校側が参加させようとして働いているとか、いわゆる教育委員会サイドで働きかけられることが不十分だというふうはこの低い数字を見る見方もあると思うのですけれども、そうではなくて、逆に子どもたちが参加できるような行事を地域が用意しているのか、あるいは地域の行事に子どもたちを参加させようとして努力しているのか、働きかけようとしているのかという側面があると思うのです。

私事で恐縮ですが、10年以上前ですけれども、私は当時、町内会・自治会の役員をやっておりました。今は高齢化によってだんだんなくなってきましたが、先ほど室長が言われましたように、地域の運動会なるものがありました。その地区の町内会・自治会が10あれば10、20あれば20がチームをつくって、そこで運動会形式でやりました。私も当時、役員をやっておりましたし、さらには教育関係におりましたので、このように子どもたちを参加させたいと思って、私の提案で徒競走をやらせましょうよ。子どもたちが参加できて、準備も簡単だから、走らせて、賞品にトイレットペーパーでもお菓子でも何でもいから、そうやって参加させましょうよという提案をし、受け入れてくれて、やりました。かなりの小・中学生が徒競走に参加いたしました。これは地域側が子どもたちを参加させる仕組みをつくって、私なりに成功事例だなと思うのですけれども、地域側に働きかける必要があるのではないかなと思っておりますが、この私の思いについてはいかがでしょうか。

○指導室長（兼）指導課長 まず学校としてできることはまだあると思っております。総合的な学習の時間や生活科また社会科等で、特に小学校などは地域をめぐって地域を知り、地域の人と触れ合いながら、地域の学習ボランティア等を活用しながら、地域の方たちが学校の中に入っているという状況があります。また中学校においても、地域のさまざまな

行事に部活動として出席するということがありますし、顔見知りになっていくことを大事にしていかなければいけないだろうと考えております。

ただ、今、佐藤委員もおっしゃったように、こういう現状があるというところで、地域で暮らす子どもたちを地域でどう育てるかということが大事な視点だと考えておりますので、例えば市民部等、町内会・自治会等の中心になっている各関係部署に、こういう結果であったということをお伝えしながら、ともにそれぞれの立場からできることは何かを考えていくことが大事であると思っておりますので、そのあたりについては今後働きかけていきたいと考えております。

○八並委員 4ページの小学校の質問紙調査において、A、Bは家庭学習ということだと思うのですけれども、これは家以外、例えば学童保育、あるいは放課後の「まちとも」なども含まれるのでしょうか。それとも、家で教科書等を開くということが中心になっており、そういうものは含まれていないという結果なのか、その辺はいかがでしょうか。

○指導室長(兼)指導課長 実はこれは私も同じように懸念をしているところであります。当然子どもたちは質問紙調査のそのままを受けて回答しますので、家でといったところを思い描いて回答しているかと思えます。ただ、町田市としては、現状として「新まちとも」における放課後学習教室、中学校で言えば地域未来塾、小学校でも地域未来塾をやっているところもございます。また、学童保育に行って、そこで宿題をしてからといったところも当然あると思えます。

これも私の想像でしかないのですけれども、そこは家でということに限定して回答していると捉えております。そうなりますと、全国、東京都の各自治体とは放課後の仕組みが違っておりますので、そのあたりについては違いがあるという見方もしなければいけないと考えております。

○八並委員 家庭学習ということも含めてですが、友人で小学生の放課後学習に携わっている者が数名いまして、その中で気になったことの1つは、学習の準備を家庭でなかなかきちんとしてもらえない児童も多いというようなお話を聞きました。放課後ということなので、家の外でということですがけれども、例えば書道をする、硬筆をさせるに当たって、持っている鉛筆が、5センチ程度の本当に短い鉛筆しか用意してこられない子どもたちがいたり、学習においても、例えばノートを用意してというときに、すぐに用意できなかったり、学習環境を整えるという部分でも、なかなか問題を抱えている児童が多いという印象を受けております。

そこは教育委員会の課題ではないかと思えます。教育委員会として、教育の現場が必ず直面する課題の1つではないかなと思いましたので、そういう面についても目を光らせていきたいなということと、家庭学習ということにもつながってくるのではないかなと思いましたが、述べさせていただきます。

○佐藤委員 今の八並委員の質問をお聞きしながら加えたいと思うのですが、小学校のA、Bはそれぞれ家でという限定がある。家で学習する、あるいは家で過ごすということが、町田市の子どもたちの家庭生活を考えたときに、十分ではないということも、「新まちとも」ができて、放課後の居場所づくりということにもなっていると思うのです。

「新まちとも」や学童保育で、どこまで予習とか復習とか、学習活動しているかどうかわかりませんが、例えばもし調査ができるなら、「新まちとも」なり、学童保育なりで学習をしているというデータが入手できれば、例えばそれが5%だったということであれば、町田市の「家で」という数字に5%加えて、町田市の様子を分析しようということになる可能性もあると思うのです。そうすると、「新まちとも」の効果といいますか、成果といいますか、分析できる可能性もありますので、ぜひほかのそういうデータも参考までに入れながら検討していただけるとありがたいかなと思いました。

○教育長 ただいまのご意見ですが、全国学力・学習状況調査は、全国的にはそれぞれの地域で、いろいろと学校を取り巻く環境もかなり違うところで、その中で同じ設問で調査するということは、状況の把握の仕方もなかなか難しいところがあると思うのですけれども、それを補填するような調査も少し考えてみたいと思えます。

あと、東京都と町田市を比較した場合、小学校の設問の中では東京都に比較して町田市のほうが肯定的な答えが多いというような形になっていますけれども、全国に比較すると、かなりの開きがある。この中身も、どういうことを意味しているのか、実はよくわからないわけです。その辺の状況についてももう少し分析してみたいと思えます。どこまでわかるかわかりませんが、そういうことにも注意して今後分析していきたいと思えます。それはまたご報告したいと思えます。

そのほか、いかがでしょうか。何かございましたらお願いいたします。――よろしいですか。

以上で質疑を終了いたします。

続きまして、報告事項(2)について担当者からご説明を申し上げます。

○指導室長(兼)指導課長 報告事項(2)「2018年度町田市教育講演会(東京都教育の日

関連事業) について」、ご報告いたします。

目的は、学校・地域・行政が推進している地域協働についての実践を教職員・市民・保護者に広く発信し、地域における教育の質の向上に向けて意見を交換したいと考えております。

3「日時」ですが、10月13日(土)午前10時から11時30分を予定しております。

5「会場」ですが、町田市健康福祉会館4階の講習室を利用いたします。

6「対象」ですが、小・中学校管理職、教員、保護者、学校支援地域理事、ボランティアコーディネーター、市民など、合計200名程度ということで想定をしております。

内容につきましては、学校支援の実践事例報告をしていただきます。事例を報告していただくのは小山中央小学校と南大谷小学校でございます。学校の管理職、学校支援地域ボランティアの取り組みについて、それぞれの立場からご報告をいただきます。

その後、講演としまして、「地域で支え合う 子供たちの育成～学校と家庭と地域が連携して育む子供の未来～」をテーマに、千葉敬愛短期大学の学長であります明石要一先生をお招きし、講演をいただくこととなります。

プロフィールがチラシの中に示してございます。明石要一先生は、千葉敬愛短期大学の学長で、千葉大学の名誉教授でございます。文部科学省生涯教育分科会臨時委員等を歴任されました。子どもをたくましく育てたいと青少年文化の研究に精力的に取り組む方でございます。固定化・画一化された従来の教育学を超えて、ユニークな研究や講義を行い、注目されている方でございます。

なお、この周知につきましては、8番にありますように、定例校長会での説明、ホームページへの掲載のみならず、今年度は生涯学習部のご協力を得まして、市内公共図書館等でポスター掲示、またチラシを置いていただいて、市民の方にアピールしていきたいと考えております。

報告は以上でございます。

○教育長 説明は終わりました。

ただいまのご報告につきまして、何かございましたらお願いいたします。

○佐藤委員 毎年期待をしていたことの1つとして、この企画を学校教育部だけでやるのではなくて、生涯学習部と合わせて、教育委員会全体で企画し、実施するという方向性が今回生まれたことを評価させていただきたいと思います。

私はこの教育講演会を、東京都教育の日の関連事業ということで、目的にもありますよ

うに、東京都で言えば、広く東京都民、それを町田市におろせば、広く町田市民に対して、町田市教育委員会がこういう教育行政をやっているのですよということを広く知らせ、必要などころでご協力をお願いしたいね、そういう機会であろうと思うのです。町田市教育委員会が進めている教育行政を一般市民が理解する絶好のチャンスです。ホームページとか、広報紙とかは年に何回かありますが、それとともに大切な機会だと思うのです。

今回、健康福祉会館なので、「対象」の中に最後に「市民など」と入っていて、市民が100人も200人も来たら入れないから、それは不可能なわけですがけれども、もし市民が2人、3人という結果だったら、とても残念だなと思うのです。その前のメンバーは、学校関係者と言ってもいいメンバーで、学校関係者に対する教育委員会のいろいろな施策などは、常日ごろから伝達されたり、協力をお願いしたりしているところなので、ぜひ一般市民に対してアピールできるような企画を、来年度以降お願いできればいいなということで発言させていただきました。

○教育長 そのほか、何かご質問等ありますでしょうか。――よろしいですか。

以上で質疑を終了いたします。

続きまして、報告事項（3）について担当者からご説明を申し上げます。

○生涯学習総務課長 それでは、報告事項（3）「自由民権資料館2018年度第2回特別展明治150年記念『幕末・維新期の町田―激動の時代を生きた人びと―』展の開催について」、報告をさせていただきます。

横浜ではペリー来航をきっかけに港が開かれました。政治・貿易・外交をめぐる、国内情勢が混乱する中、人々は海防・輸送人馬の負担増加など、さまざまな負担に苦しめられました。

この目まぐるしい社会変化に対応し、取り残されないようにするため、人々は、さまざまなルートから、さまざまな情報を入手しようとします。特に村落運営の任を負い、急激な社会変化に対応して家を存続させる使命を担っていた地域リーダーは、多様な情報を集め、この時代を必死に生き抜こうとしました。

町田市域にあった村々は直接戦闘に巻き込まれることはありませんでしたが、武州一揆鎮圧に参加した木曾農兵隊や、第二次長州征討に参加した八王子千人同心など、実際に戦闘を経験した人々の体験は、一般の人々にも幕末の社会混乱を肌身に感じさせました。

今回の展示では、町田市域に生きた人々が、混沌とする幕末維新期の政治社会状況の中で、どのような影響を受け、どう対峙していったのか、その一端をご紹介します。

開催期間は10月6日から11月25日まで。自由民権資料館企画展示室での展示となります。
関連事業として、講演会を3回、ギャラリートークを4回予定しております。
報告は以上でございます。

○教育長 説明は終わりました。

ただいまの報告につきまして、何かございましたらお願いいたします。――よろしいですか。

以上で質疑を終了します。

続きまして、報告事項（4）について担当者からご説明申し上げます。

○生涯学習センター長 報告事項（4）『『平和祈念事業』の実施報告について』でございます。

生涯学習センターでは、毎年8月に平和祈念事業を実施しております。この事業は、公民館当時の1985年より実施している歴史ある事業ですが、今年度は7月22日（日）と7月29日（日）にプレイベントを行い、8月3日（金）から9日（木）までの7日間、メインイベントを行いました。

延べ参加者数は1,499人で、昨年度と比較して36名増加いたしました。また、折り鶴の作成やさるぼぼづくりなどで、まちだサポーターズなどのボランティアの方が67名参加してくださいました。

1 ページ目後段から2 ページ目にかけて、プレイベントや期間中のイベントに関して写真を掲載し、様子をご覧いただいております。ランプシェードづくりや、親子ですいとんやサツマイモの餅をつくるイベント、平和のおはなし会やアニメの上映など、お子さんも参加できるようなイベントのほか、期間中は「サダコと折り鶴」と題した原爆パネルや戦時資料のほか、市内の子どもたちが描いた絵手紙の展示を行いました。

2 ページ目後段には、8月9日（木）に実施した被爆体験者からお話を伺う催しに参加した方の感想を掲載しています。戦争の悲しみや平和のとうとさについて改めて考える機会を提供したイベントとなりました。

報告は以上でございます。

○教育長 説明は終わりました。

ただいまの報告につきまして、何かございましたらお願いいたします。――よろしいでしょうか。

以上で質疑を終了いたします。

続きまして、報告事項（５）について担当者からご説明申し上げます。

○図書館市民文学館担当課長（町田市民文学館長） 報告事項（５）「『みつはしちかこ展 一恋と、まんがと、青春と一』の開催について」、ご報告申し上げます。

開催期間は2018年10月20日（土）から12月24日（月）まで57日間を予定しております。

今回、入場料をいただく企画展としまして、一般の方は400円、65歳以上、大学生の方については200円となっております。

５「開催趣旨」でございます。漫画家・みつはしちかこ氏は、1972年（昭和47年）から37年間、家族とご一緒に町田市玉川学園に暮らしていらっしゃいました。この間に「小さな恋のものがたり」とか、「ハイあっこです」など、みつはし様の代表作を次々と発表され、漫画家としての地位を確かなものにされていらっしゃいます。

本展では、代表作の「小さな恋のものがたり」といった漫画作品から、エッセー、詩集、イラストレーション、絵手紙、俳句など、みつはし様の多彩な仕事をご紹介させていただきます。

また、今走っております玉川学園コミュニティバス「玉ちゃん号」には、「ハイあっこです」という漫画のキャラクターがラッピングされていたり、町田市社会福祉協議会のキャラクター「あいちゃん」のデザインもみつはし様のものがございます。こういった市民にも親しまれ、本年77歳を迎えたみつはし氏の足跡を検証する展覧会といたします。

報告は以上です。

○教育長 説明は終わりました。

ただいまの報告につきまして、何かございましたらお願いいたします。――よろしいですか。

以上で質疑を終了します。

続きまして、報告事項（６）について担当者からご説明申し上げます。

○教育総務課長 それでは、報告事項（６）「南成瀬小学校 親子・地域参加型 総合防災訓練の実施について」、ご報告いたします。

明日、9月15日に南成瀬小学校にて、親子・地域参加型の総合防災訓練を実施いたします。この訓練は、昨今では地震、台風、豪雨など、日本各地で災害が多く起こっている中、地域防災意識のさらなる向上を目的として、児童・生徒のみならず、保護者、地域の参加を募りまして、総勢900人という、小学校単独の防災訓練としては、町田市では初めての規模の訓練を行うということで、プレスリリースをさせていただいたものでございます。

当日は、町田消防署成瀬出張所、町田市消防団、町田交通安全協会などの協力を得まして、煙体験、初期消火、AEDの操作訓練、起震車体験、こういったものを、地域の方を含めて体験をしていただき、訓練をしていただくことになっております。

また、ご家庭に眠る食材、不要な食材などを集めて、子ども食堂などに提供する「フードドライブ」も同時に開催をさせていただく予定でございます。

報告は以上です。

○**教育長** 説明は終わりました。

ただいまの報告につきまして、何かございますでしょうか。——よろしいでしょうか。

以上で質疑を終了いたします。

本日の議事以外で、委員の皆様から何かございましたらお願いいたします。

○**佐藤委員** ただいま南成瀬小学校の総合防災訓練のご報告がありました。このように、学校もそうですし、教育委員会もそうですが、それぞれすばらしい取り組みが実践されていると思うのです。そういうのをPRするといえますか、それが以前よりは進んできたかなと思うのですけれども、まだまだ足りないなと思っておりますところで、このように教育委員会のほうで、小学校の取り組みを紹介する、その手助けをするというのはとてもいいことだなと思いました。

それから、私の知るところでは、今年も鶴川第二中学校の合唱がNHK合唱音楽コンクールで全国大会に出場することが決まりました。これは私は知り合いのほうから得た情報ですが、こういうすてきな情報はもっと広められるといいなと思っております。多分、私の知らないところでも、いろいろすばらしいことがあるのではないかなと思いますが、この南成瀬小学校の防災訓練のように、すばらしい取り組みや結果についてはぜひ大きく広報していただきたいなと思います。

そんな中で、私自身が最近反省をしていることですが、町田市のすばらしい取り組みの中に職場体験があります。もう何年目になるのかわかりませんが、ずっと継続されています。東京23区26市、その中で1週間、5日間実施している地区はそうないわけで、町田市はそれをずっと続けているということで、今年もそうだろうねと思いつつ、私自身の意識も、すばらしいことに取り組んでいるのに自覚が足りないなと思ったところです。この定例会の場で、今年の職場体験の取り組みについて、もしPRできること、報告できることがありましたら、ぜひお願いしたいと思います。

○**指導室長（兼）指導課長** 2018年度の中学校2年生職場体験の取り組みについて、お話

をさせていただきます。

今年度も中学校20校を3期に分けて実施をいたします。第1期は9月17日（月）から9月21日（金）まで、中学校7校、946名の生徒がそこで職場体験を実施します。第2期は11月19日（月）から23日（金）までとなっております。6校、1,064人の生徒で実施をする見込みとなっております。第3期につきましては、年が明けまして、1月21日（月）から25日（金）まで、7校、1,333人が職場体験を実施する見込みとなっております。

合計しますと、今現在ですが、3,343人の中学2年生、そして受け入れ事業者数は、第2期、第3期、まだ見込みの部分もございますが、延べ910の事業所様にご協力をいただいております。この市役所の中でも、3期合計で、13の部、77の職場で受け入れていただくことになっております。

毎年度、職場体験推進協議会を年度末に設けさせていただいて、各事業所様からお声等もいただいております。その中で、以前に比べて挨拶がよくなったよという肯定的なお声をいただいたり、働くというのは、働くだけではなく、通勤から含めて働くということなんだということを経験する機会ではないかというお声もいただいております。

また、どの職場でも同じように大切な働くことの意義を学ぶということの一方で、この仕事だけを体験したいというような思いで来られるお子さんたちもいる。その職種を学ぶということではなく、職場を体験するという意味を理解するところに1つまだ課題があるかなということがあります。

さらに、今年度も延べ910の事業所で受け入れていただいくわけですが、事業所等についてはまだまだ開拓の必要性もある。一方で、働き方改革の観点から、事業所等もなかなか受け入れも難しいといった声も聞くところでございます。このあたりにつきましては、地域の方々、皆様の協力を得ながら取り組んでいるところですので、また地域に還元できるようにしていきたいと考えております。

以上でございます。

○佐藤委員 職場体験の意義についてはもう間違いないことだと思っておりますが、実施に当たってはさまざまな課題があるのではないかなと思います。その課題を現在クリアされているのか、あるいは新たな課題が何なのか、もしわかったら教えていただきたいのです。

受け入れ先ということでは、職場体験を始める1年目というのは、受け入れ先の職場が見つからずに、教育長もかつてご苦労されたことがあると思いますが、当時の教育長以下、

幹部職員が、市長部局と一緒に職場探しに奔走されたという歴史があるわけです。今、多少報告がありましたが、事業所を用意することについて、現時点では新たな課題があるのかないのか。

それから、かつて私の知るところでは、例えば幼稚園に行って、そのときに中学生がついていて、幼児が転んでしまって、けがをしてしまったとか、逆に中学生が幼児から眼鏡を壊されてしまったとか、そういうことも含めて、さまざまな課題があって、そのときそのときを上手にクリアしてきたから、現在も続いているのだらうと思いますが、現在何か課題を抱えていらっしゃるのかどうか、わかる範囲で教えていただければと思います。

○指導室長（兼）指導課長 課題についてでございますが、事業所については、今、市役所の指導課のほうで一括して文書を送付したり、事業所のリストをつくったりということで対応しています。ただ、町田市の地域性から、なかなか広いもので、事業所が偏ってはいけないという部分もありますので、そうなったときに、事業所はまだまだ開拓する必要があるというところは、課題として認識をしております。

また、先ほどありましたようなけがといったところにつきましては、その都度連絡をいただきながら対応するというような状況で、必ずしもそれがないとは言い切れないと思っておりますので、そのあたりの補償等につきましても、既に対応はしているという状況でございます。

○佐藤委員 町田市ならではの大変すばらしい取り組みでありますので、私も強い関心を持って、学校や子どもたち、そして職場の皆さんをご支援させていただきたいなと思っております。ありがとうございました。

○教育長 そのほか何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

以上で町田市教育委員会第6回定例会を閉会いたします。

午前 11 時 20 分閉会